

令和5年3月

川崎市の交通の現況

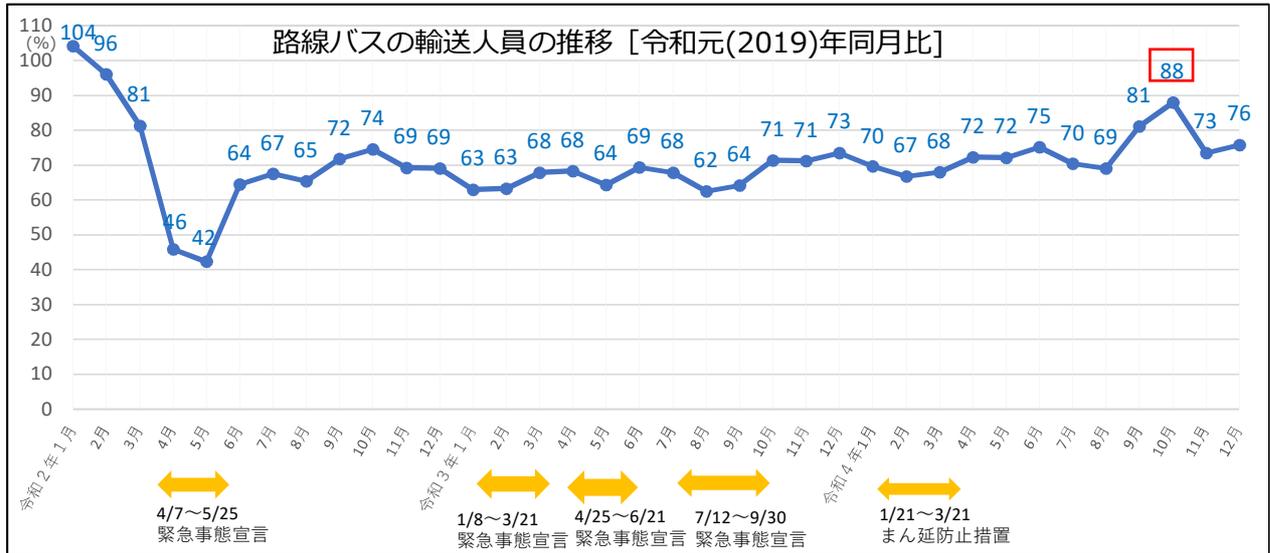
VOL. 4

新型コロナウイルス感染症の交通への影響 ④



市内路線バスの輸送人員の推移

市内を運行する路線バスの輸送人員は、令和2(2020)年3月から落ち込みが見られ、同年4月7日～5月25日までの緊急事態宣言期間中には、感染拡大前の平成31/令和元(2019)年同月比で、約40～50%と大幅に減少しました。その後は新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の令和元年度同月比の約70%で推移していましたが、令和4年10月には88%とコロナ以降最高の回復を達成しましたが、その後の落ち込みもあり、70%台を保っています。

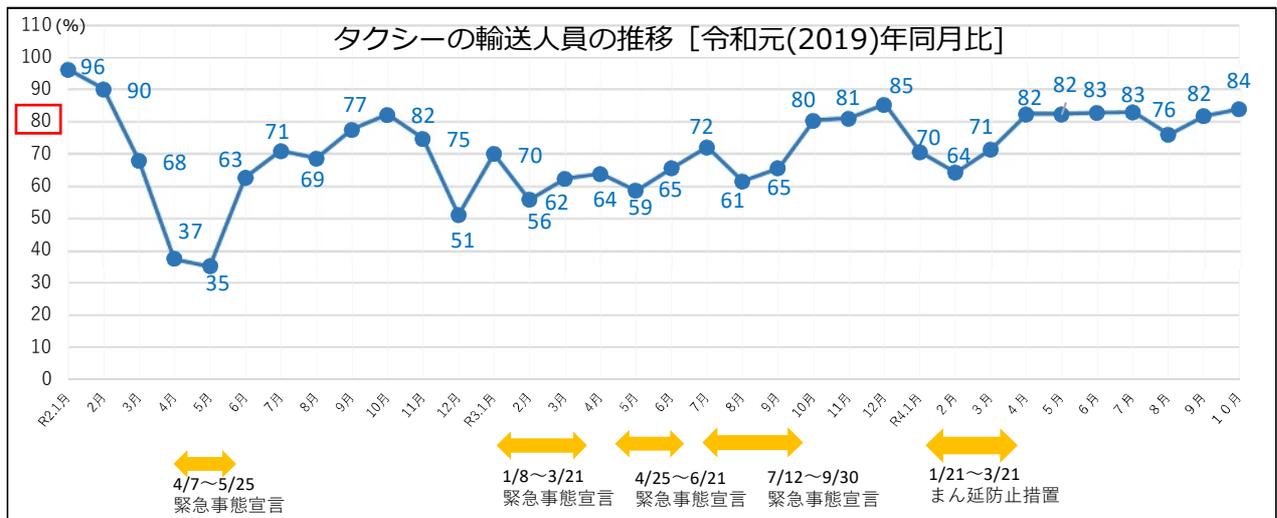


(バス事業者 [川崎市交通局、川崎鶴見臨港バス、東急バス、小田急バス] 提供資料に基づき作成)

市内タクシーの輸送人員の推移

市内を運行するタクシーの輸送人員は、1回目の緊急事態宣言期間の令和2(2020)年4月は令和元(2019)年同月比で37%、5月は35%と大きく落ち込みました。その後、7月から11月には約70～80%まで回復しましたが、繁忙期の12月は51%と落ち込みました。

令和3(2021)年に入り、約60～70%で推移していましたが、徐々に回復傾向を見せ始め、今年1月からのまん延防止措置により落ち込みも見られましたが、その後も継続して80%台を保っています。

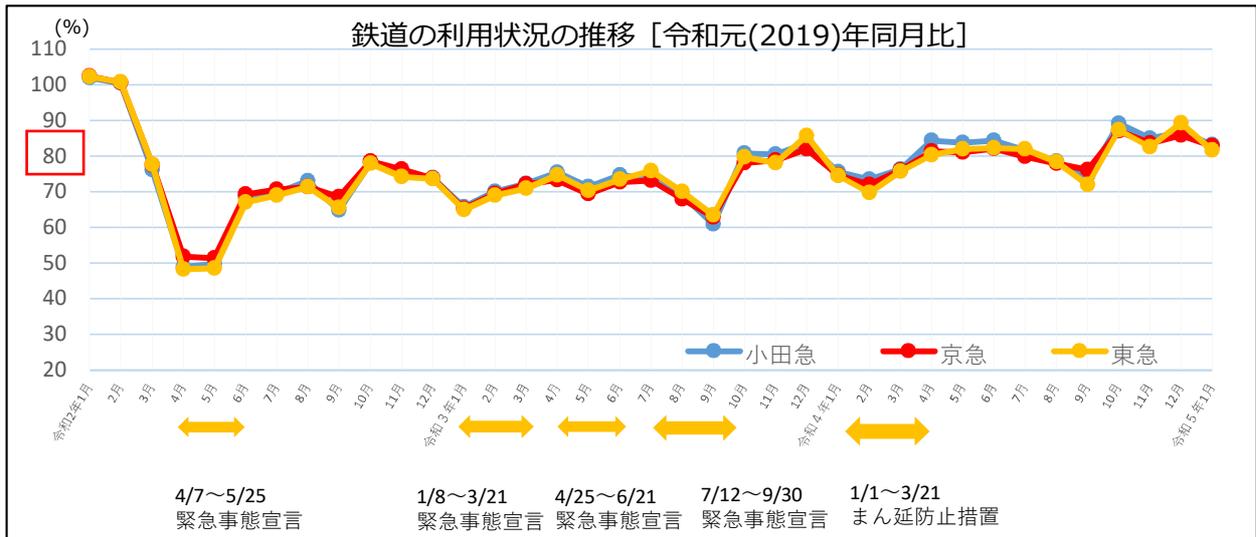


(神奈川県タクシー協会川崎支部 提供資料に基づき作成)

鉄道の利用状況の推移

鉄道の利用は令和2(2020)年3月から落ち込み、1回目の緊急事態宣言期間中の4月、5月は東京、神奈川を営業区域とする小田急、京急、東急の各社は令和元(2019)年同月比約50%台に低下しました。

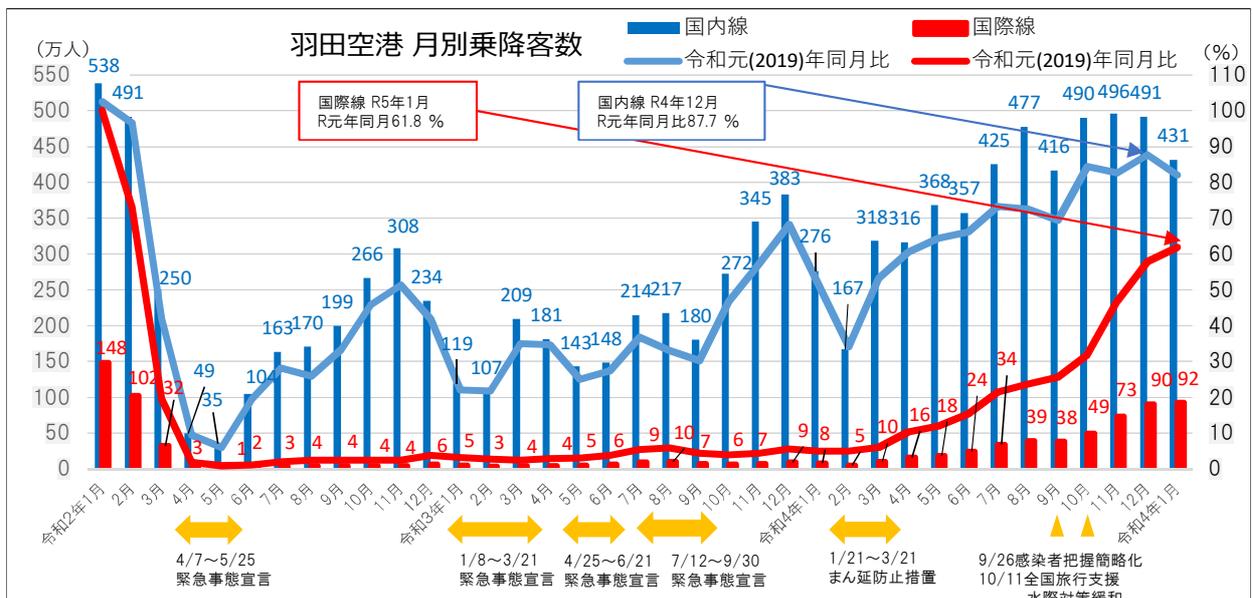
その後、通常期には約70%で推移しました。緊急事態宣言が解除された令和3(2021)年10月から12月には各社とも約80%に回復し、令和4年10月以降も80%台を保っており、コロナからの回復がうかがえます。



(各社公表資料より作成)

航空旅客の乗降客数の推移

羽田空港の国内線月別乗降客数は、令和4年3月のまん延防止措置解除から増加し、10月以降急激な回復を見せ、国内線は令和4年12月には令和元年同月比87%まで回復しています。また、国際線も今年1月には令和元年同月比61%と急激に回復しました。これらの原因には、9月の感染者数把握簡略化及び10月の全国旅行支援・水際対策緩和があると推察されます。



(国土交通省東京航空局「管内空港の利用概況集計表」より作成)

行動の変化（全国都市交通特性調査から）

国土交通省が概ね5年に1回の間隔で実施している、「全国都市交通特性調査」について、令和3年度に実施した調査結果の速報が公表されました。

前回（平成27年実施時）に比べ、在宅勤務による移動の減少を反映し、都市における外出率は過去最低の値を記録しました。外出率の低下は、在宅勤務者の割合が多い三大都市圏※で特に顕著で、平日・休日ともに、三大都市圏が地方都市圏を下回る結果となりました。

■都市圏別の外出率（％）

※東京都・大阪・名古屋及び周辺

【平日】



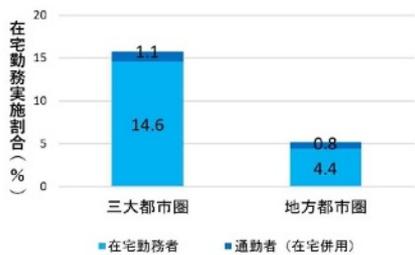
【休日】



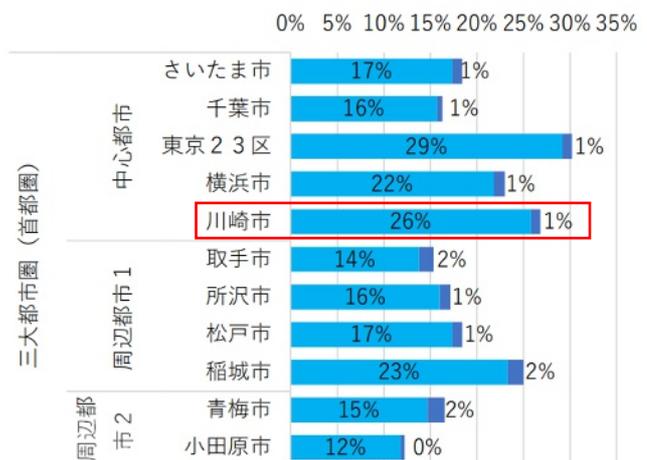
在宅勤務の実施割合については、三大都市圏の15%に対して、地方都市圏では4%と大きな差があります。休日については、それほど差が見られません。また、実施割合では、川崎市は東京23区に続き全国2位となっています。今後の動向については、アフターコロナの社会状況を踏まえ、注視を続けていく必要があると考えます。

■都市圏別の就業者の在宅勤務実施割合（％）

【平日】



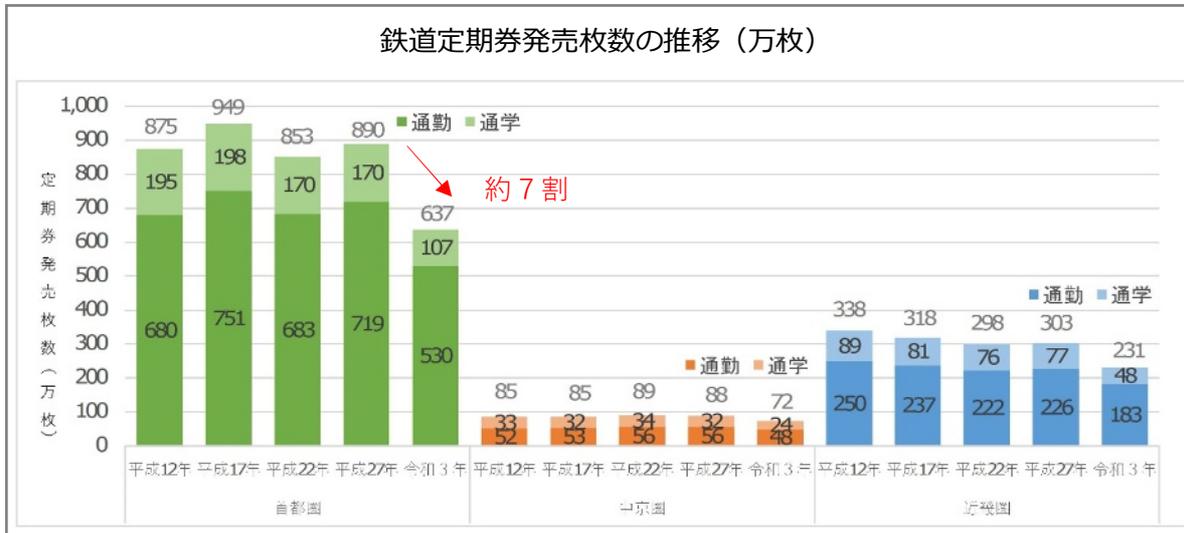
【休日】



（国土交通省「令和3年度全国都市交通特性調査結果（速報版）」より）

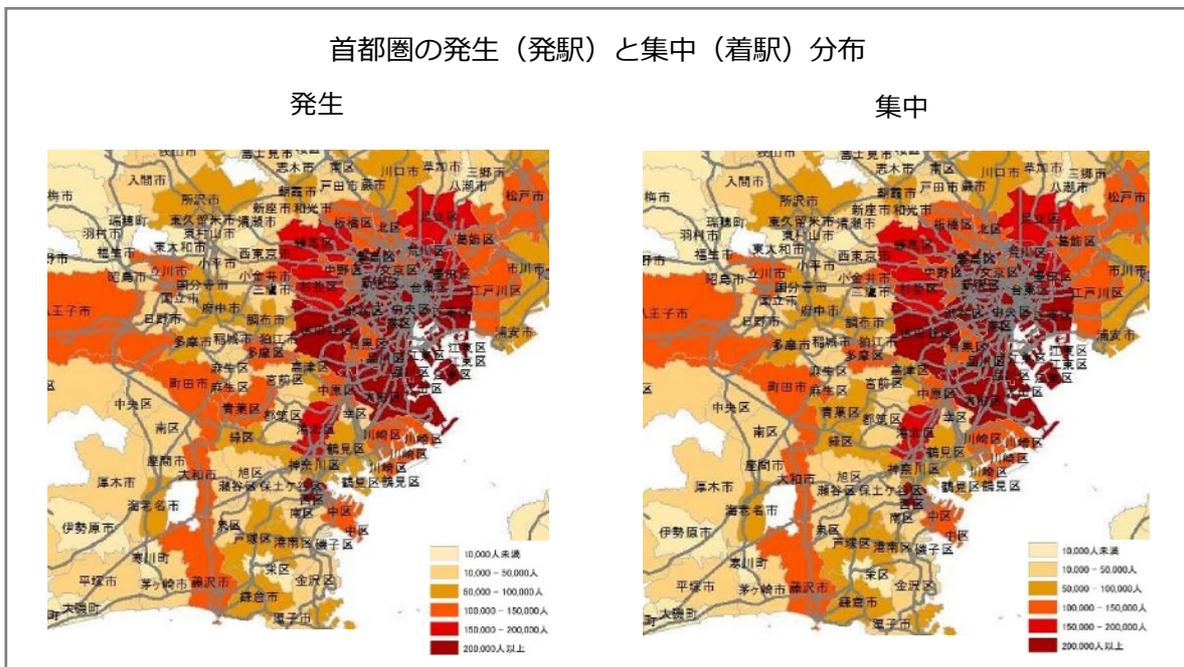
行動の変化（大都市交通センサスから）

国土交通省が概ね5年に1回の間隔で鉄道、バスの利用実態を把握するために実施している、「大都市交通センサス調査」について、令和3年12月に実施した調査結果の速報が公表されました。



鉄道定期券の発売枚数は、首都圏637万枚、中京圏72万枚、近畿圏は231枚となり、全ての圏域において、前回（H27年）調査から約2-3割減少しました。

特に首都圏は通勤の減少幅が大きく、5ページの在宅勤務実施割合とほぼ一致することから、在宅勤務の効果が大きいことが推察されます。



鉄道ICカード調査による首都圏の1日あたりの乗車回数（定期券除く）は、約1,400万件でした。市町村間の人々の流動を見ると、川崎市については、川崎区、中原区、多摩区に10万人以上の流動が見られます。乗換駅となる川崎駅、武蔵小杉駅、登戸駅が存在することが主な要因だと推察されます。

（国土交通省「第13回 大都市交通センサス調査（速報版）の公表について」より）



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th